野研びより

野外生物生態調査研究部　昆虫班

2015 年 5 月

写真 1. 木花フィールドで確認されたアサギマダラ.

アサギマダラ　*Parantica sita*
鱗翅目　タテハチョウ科　マダラチョウ亜科

前翅に黒い翅脈と半透明の水色の斑紋が、後翅に濃茶色の地に水色の斑紋があり、鱗粉はあまりない(写真 1)。「浅葱」とは青緑色の古称で、この斑紋の色に由来する。その美しさ所以に人気は高い。

アサギマダラは標高 1,000m 前後の山地に生息し、南に生息している個体は、春に西の風に乗りつつ北へ向かって 2,000km 近くもの距離を移動する。アサギマダラの生息最適温度は 21～22℃であり、南では春になると気温が最適温度を超えるためである。しかし、大移動の理由はこれだけではない。アサギマダラは、スナビキソウやヒヨドリバナ、フジバカマ、アザミ等のキク科植物の花の蜜を大好物としているが、スナビキソウやヒヨドリバナ、フジバカマにはピロリジジンアルカロイドが含まれ、アサギマダラの雄は、雌に放つ性フェロモンの合成に必要なピロリジジンアルカロイドをこれらの植物から摂取している。スナビキソウ・ヒヨドリバナ・フジバカマは地域によって開花時期が異なるため、これらの植物を求めて北上しているのではないかとも考えられている。

なお、移動の際には上昇気流に乗った後に、上空から高速で滑空下降することで、エネルギーを最小限に抑えつつ移動する手段をとっている。飛行の名人（蝶）である。
宮崎大学の木花フィールドにおけるパラポラッチョの木の裏あたりに咲いているスイゼンジナ(写真 2)もピロリジジンアルカロイドを含んでおり、このスイゼンジナを求め飛び回るアサギマダラを 4～5 月に確認することが出来る。

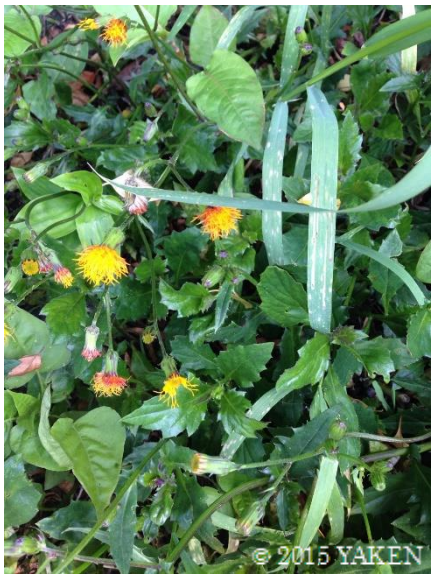

写真 2. 木花フィールドに生育するスイゼンジナ. ぬめりけがあり野菜として食べることが可能.

スイゼンジナ　*Gynura bicolor*
キク目　キク科　キク亜科

アサギマダラが長距離を移動する蝶であることはすでに述べたが、この実態を明らかにするために全国でマーキング調査が行われている。

　マーキング調査は、アサギマダラの翅に個体ごとに決まったマークをつけて放し、それがどこかで再捕獲されると、その個体の寿命や、移動分散の距離を知ることができる。マーキングは、油性のフェルトペンで翅の裏側に標識者が特定できるような記号と個体番号、標識した日付などを書き込むものなのだが、宮崎大学木花フィールドでもマーキングされた個体を確認することができた(写真 3)。

写真 3. マーキングされた個体. 2015 年４月30 日木花フィールドで確認された.

　YAKU、YK-4369 と書いてあるが、これは屋久島のＹＫ氏がマーキングした個体、という意味である。４月 19 日とも書いており、捕獲したのは 2015 年４月 30 日 15 時。 屋久島から宮崎大学は直線距離で約 175 ㎞あるため、この個体は１日に約 16 ㎞飛んできたということになる。結構のんびりした個体である。捕獲したこのアサギマダラは放逐し、マーキング調査を行っている団体に報告を行った。さらに北でこの個体に関する報告があがることを祈る。